

福島県教育旅行ジャーナル

Fukushima Prefecture Educational travel journal

Vol.3
平成25年11月発行

発行責任者 福島県観光交流課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
TEL:024-521-7286 FAX:024-521-7888
E-mail:tourism@pref.fukushima.jp

編集 調査・情報発信事業事務局
〒963-8032 福島県郡山市字下亀田17番地の7 (株ル・プロジェクト内)
TEL:024-934-5020 FAX:024-935-0760
E-mail:kyoiku.travel@leprojet.co.jp

福島県内では地域の自然や文化を生かした、特色ある教育旅行が実施されています。
今回ご紹介するのは、広野町を訪れボランティア植樹を行った東京都立富士高等学校です。
植樹後には福島県立双葉翔陽高等学校の生徒たちと交流を行い、復興に向けたたくさんのエールを送りました。

ふくしまの未来へ、希望の花を咲かせたい 広野町でボランティア植樹と学校交流会に参加 東京都立富士高等学校

東京都の都立高校では、2007年(平成19年)から必修科目として「奉仕」が設定されています。富士高等学校では例年、清掃活動などを行っていましたが『福島浜街道・桜プロジェクト』を知り、「少しでも福島の手助けになるのなら」という思いから奉仕活動の一環としてボランティア植樹に参加することになりました。震災後、広野町に福島県外の学生が訪れ、今回のプロジェクトに参加したのは初めてとなります。

『福島浜街道・桜プロジェクト』ボランティア植樹

植樹場所:国道6号線約1,300m区間

海沿いからのさわやかな風が吹くなか、国道6号線約1,300mの区画内にサトザクラ64本、オオシマザクラ45本が植えられました。参加した生徒たちは、苗木1本1本に30年後の桜の姿と福島復興への思いを馳せながら、熱心に取組んでいました。



▲植樹場所となった国道6号線



▲復興への祈りをこめながら手作業での植樹

福島県立双葉翔陽高等学校との学校交流会

場所:広野町中央体育館

福島県立双葉翔陽高等学校は、福島第一原子力発電所から直線距離で約5.5kmに校舎があるため避難を余儀なくされており、現在はいわき明星大学でサテライトを開設しています。交流会では、双葉翔陽高等学校の生徒会役員が参加し、福島県の特徴の説明や東日本大震災での被害状況、学校紹介が行われました。最後に意見交換が行われ、被災当時の気持ちや復興支援への要望など、同世代の生の声が交わされました。



▲会場内には震災当時の写真展示も



▲復興について同じ目線で考える

学校紹介

東京都立富士高等学校

(東京都中野区)



大正9年開校、平成32年度末には創立100周年を迎える伝統ある中高一貫校です。受け継がれてきた「自主自律」「文武両道」の精神を基に、新しい教育プログラムや教育目標を取入れ、活気のある教育活動を展開しています。1学年の「総合的な学習の時間」に必修科目である「奉仕」が組み込まれており、生徒たちは実際の体験活動を通して奉仕活動の理念や意義を学んでいます。

ボランティア植樹、学校交流会日程

場所 国道6号線(広野町大字夕筋~楳葉町大字山田岡)、広野町中央体育館

実施日 平成25年10月3日(木)

人数 1年生 188名

●広野町

浜通り南部、双葉郡に属しています。年間を通して温暖な気候に恵まれており、「東北に春を告げるまち」と呼ばれています。東日本大震災や原発事故によりさまざまな被害に見舞われましたが、現在は町民が一丸となって復興に向けたまちづくりに取り組んでいます。



生徒の感想

- 震災の影響で現地の方が暗くなっているのではないかと心配しましたが、とても明るく歓迎してもらい、安心しました。もっと明るく元気な町になってもらえるように、これからも応援していきたいです。そして、桜を植えた場所にもう一度来てみたいです。(東京都立富士高等学校生徒)
- 同じ高校生の意見を聞くことで気持ちが伝わり、深い「つながり」を感じました。全国に福島の実状を伝えて、福島に来てもらえるように応援していきたいです。(東京都立富士高等学校生徒)

VOICE

ふくしまへメッセージ



東京都立富士高等学校 1学年主任 後藤 洋士 先生

保護者から広野町を訪れるにあたり、安全性についての質問がありました。しかし、今年8月に視察として広野町を訪れた際、そこには東京と何も変わらない普通の生活をしている姿がありました。生徒たちには、今回の体験を通して得たものを一人ひとりの人生の糧として将来に活かし、そして、福島の実状を伝えていってほしいです。